



# 祝20周年!

合言葉は「楽しい 空間 楽空間♪」

# よさこいチーム 丹波篠山楽空間

“丹波篠山楽空間”は丹波篠山市を拠点に、県内外で行われ成され、昨年20周年を迎えました。現在下は幼児から上は60を活動の柱とし、『踊り・夢・感動』をテーマに、“丹波篠山ふる

るさまざまなイベントに参加しているよさこいチームです。2000年に結成代までと、幅広い年齢層のメンバーが在籍しています。青少年健全育成さと大使”としてよさこいを通じて丹波篠山を全国にPRしています。



## よさこいの魅力

よさこいの魅力は、「年齢関係なく、子どもから大人まで自然と笑顔で楽しく踊ることができ、観客の皆さんにも笑顔と元気を与えることができること」。踊る側の楽しさはもちろん、観客の皆さんも思わず手拍子がしたくなるような楽しい空間に魅了されます。迫力のある踊りや声、色鮮やかな衣装、構成の変化や小道具、大道具を使った華やかな演出に、観客の皆さんはくぎ付けになります。



丹波篠山楽空間のオリジナル曲は、北海道の民謡「ソーラン節」と郷土丹波篠山の民謡「デカンシヨ節」を組み合わせて制作。踊りには高知県のよさこい踊りで使われる「鳴子」を手にも踊るのも大きな魅力です。最近、親子で入会された松本香菜子さんは「初めて楽空間が踊っているのを見たときに、すごい！カッコイイ！と感動しました。子どもから大人まで一緒に踊っているのを見て、娘と一緒によさこいを踊りたいと心に決めました」と話されました。

## 20周年を振り返って

代表の上羽裕樹さんが、高校1年生の時にスタートした丹波篠山楽空間。今では親になり、自身の子どもたちと一緒に舞台上に立たれていきます。上羽さんは、「あっという間の20年でした。多くの出会いがあり、人として成長できました。これからは「踊り、夢、感動」をテーマに、観てくださる方々には元気を、次世代の子どもたちには自分たちが得られたものを与えられるよう、30年40年とチームが継続していけるように頑張っていきたいと思います」と話します。



## 人として成長できる場

実は、リポーターの私も、楽空間のメンバーです。小学2年生の時に従姉妹に誘ってもらったのがきっかけで入会しました。最初は声を出して人前で踊ることが恥ずかしく、年上の方のパワーに圧倒されていました。しかし、それと同時に「私もいつかあんなふうに踊れるようになりたい！」と憧れの気持ちを強く抱くようになりました。気付けば、恥ずかしさは忘れ、楽しさややりがい

## 楽空間のこれから

現在、同じ丹波篠山ふるさと大使として活動されている「人生応援歌メッセ」プロジェクトと楽空間で、一緒に楽曲を作っています。すでに一曲にするためにみんなで案を出し合い、楽曲作成に取り組んでいます。昨年からは新型コロナウイルスの影響で舞台上に立てない状況ですが、大変な今だからこそ「よさこいで元気を届けたい」という気持ちでいっぱいです。皆さん楽しみにしてください。

また、丹波篠山楽空間は新メンバーを募集しています。私たちと一緒によさこいを踊りませんか？少しでも気になった方は一度練習を見に来てください。日程は公式ホームページをチェックしてくださいね。



リポーター  
なかじま りえ  
中嶋理恵さん  
(野中)

知り、憧れの存在は目標に変わり、踊りが大好きになっていました。入会して12年。辺り一面、人で埋め尽くされ、歓声や手拍子の数に驚きとうれしさで溢れた大賞受賞時の演舞の舞台、熱意や気持ち全てを瞬間に注いだ緊張の審査の舞台、悔し涙を流しながら踊った舞台など、さまざまな思いを経験しました。数えきれないほどの舞台上に立ってききましたが、一回一回の舞台に懸ける想いは強く、それらはかけがえのない時間となっています。子どもたちに踊りを指導することや、年上の方とコミュニケーションを取るなど、縦のつながりと、他チームとの交流や、合同チームでの活動である「横のつながり」が、自分の中で経験となり、人として成長できる糧になったと思います。20歳になった今の私にできるのは、チームに感謝し、これからもチーム活動に貢献していくことだと考えています。途切れることなくこれからもずっとつないでいけるよう、この大好きなよさこいを続けていきます。

楽空間を知りたい人はこちら

- 公式ホームページ
- Facebook
- Instagram
- Twitter
- 事務局メールアドレス

